

土壌インベントリ事業説明会（中国地区）

開催日 2009/8/31~9/2

場所 8/31 鳥取県林業試験場

9/1 鳥取県日野郡日南町生山（格子点 ID 310020）

9/2 鳥取県日野郡日野町（格子点 ID 310030）

講師 吉永・稲垣(善)・酒井(佳)（森林総研） 溝口（森林総研関西）

参加者 宮本・西垣・小山・杉山（鳥取県） 山中・堂端（島根県） 小坂・末長（山口県） 片桐・牧本（岡山県） 山本・網本・田中（ユニチカ環境技術センター）



調査前の説明（生山駅前）



ID310020 土壌型 BD(d)

記録

8月31日は、今回初めて参加する鳥取県とユニチカの担当者に対して鳥取県林業試験場の会議室と構内のスギ林で調査方法の概要や土壌炭素蓄積量調査の簡単な説明を実施した。

9月1日は、JR生山駅駐車場に正午過ぎに集合し、簡単な自己紹介とスケジュールの説明の後に、駅の近くにある神社の裏山で講習会を開始した。調査地は東向きの山腹斜面に位置するコナラとアカマツが優占する二次林で、神社に近い斜面下部は竹が混在した。下層植生はササとネジキやリョウブなどの広葉樹種であった。はじめに調査地概況調査と枯死木調査の説明をおこない、その後は4班に分かれて堆積有機物調査と土壌炭素蓄積量調査の実習をおこなった。

枯死木調査の説明では、分解度2と3、および3と4の区別が難しいが、判別のポイントを教えて欲しいとの質問があった。これに対して吉永講師から枯死木の判別は見た目だけでなく材を指で押す、持ち上げる、割ってみるなど行うと分かりやすいことが説明された。酒井が担当したS地点は、母岩の花崗岩砂礫を多く含み土壌は崩れ

やすく、土壌深 30cm 付近には大きな岩石が出現した。宮本氏が記載をおこない、サンプル採取方法の実習を行った。N 地点では厚い F 層の下に H 層の発達を確認されたため、他の地点の実習者も集合し、堆積有機物層の見分け方を吉永講師が説明した。この調査地はグレード 2 であったが、土壌断面を採掘し、代表断面調査の記載について説明をおこなった。判定が難しい土壌構造と土性、および土壌型について熱心に質疑応答がおこなわれた。調査地の代表断面の土壌型は、A 層に団粒状構造が見られず、弱度の粒状構造が認められたことから BD(d)と判定した。

9 月 2 日の調査地は、南向きの山腹斜面で前日より傾斜が急で大きな岩石が露出していた。植生はアカマツと広葉樹種が優占する林で、下層植生も前日の調査地と似ていたがササの優占度は低かった。斜面下部はスギ林であった。この調査地はグレード 1 で代表断面調査の実習を中心におこなった。はじめに掘削を試みた位置は深さ 15cm 付近から岩盤が露出したので、2m 位置をずらして新たに代表断面を作成した。小山氏が代表断面調査票を記載し、それに合わせて調査の手順を説明した。この調査地の土壌型は、表層付近に粒状構造、深いところに塊状構造が認められたので、BD(d)と判定した。断面整形や記載の途中、土壌調査を既に何件もこなしてきているベテラン参加者から、調査方法を手際よくおこなうコツや調査用具の工夫などが披露され、良い情報交換の場となった。お昼頃に終了する予定をややオーバーして、講習会は無事に終了し、現地での解散となった。

日程

8 月 31 日

14:30 ~ 調査方法の概要説明

15:30 ~ 土壌炭素蓄積量調査の方法説明

9 月 1 日

12:30 JR 生山駅駐車場 集合

13:00 ~ 調査地到着、調査概要説明、調査地概況調査の説明

13:20 ~ 枯死木調査の説明

4 班に分かれて、堆積有機物調査と土壌炭素蓄積量調査の説明と実習

16:00 ~ 代表断面調査の説明

17:30 1 日目現地実習終了

9 月 2 日

8:00 宿舎を出発

8:30 ~ 調査地到着、代表断面調査講習

13:30 講習会終了、現地解散



代表断面の撮影



I D310030 土壤型 Bd(d)



代表断面調査法講習（鳥取県林試構内）



土壤炭素蓄積量調査の実習



堆積有機物の採取法



調査地概況の記載法を説明